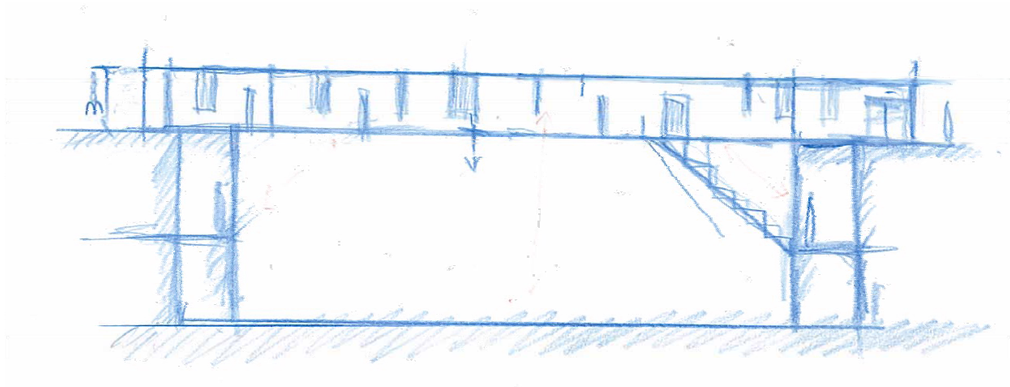
橋をかける

2009年度 建築設計３年次デザイン研修課題「新宿センタービル広場に建つギャラリー」

山村周平



橋をかける

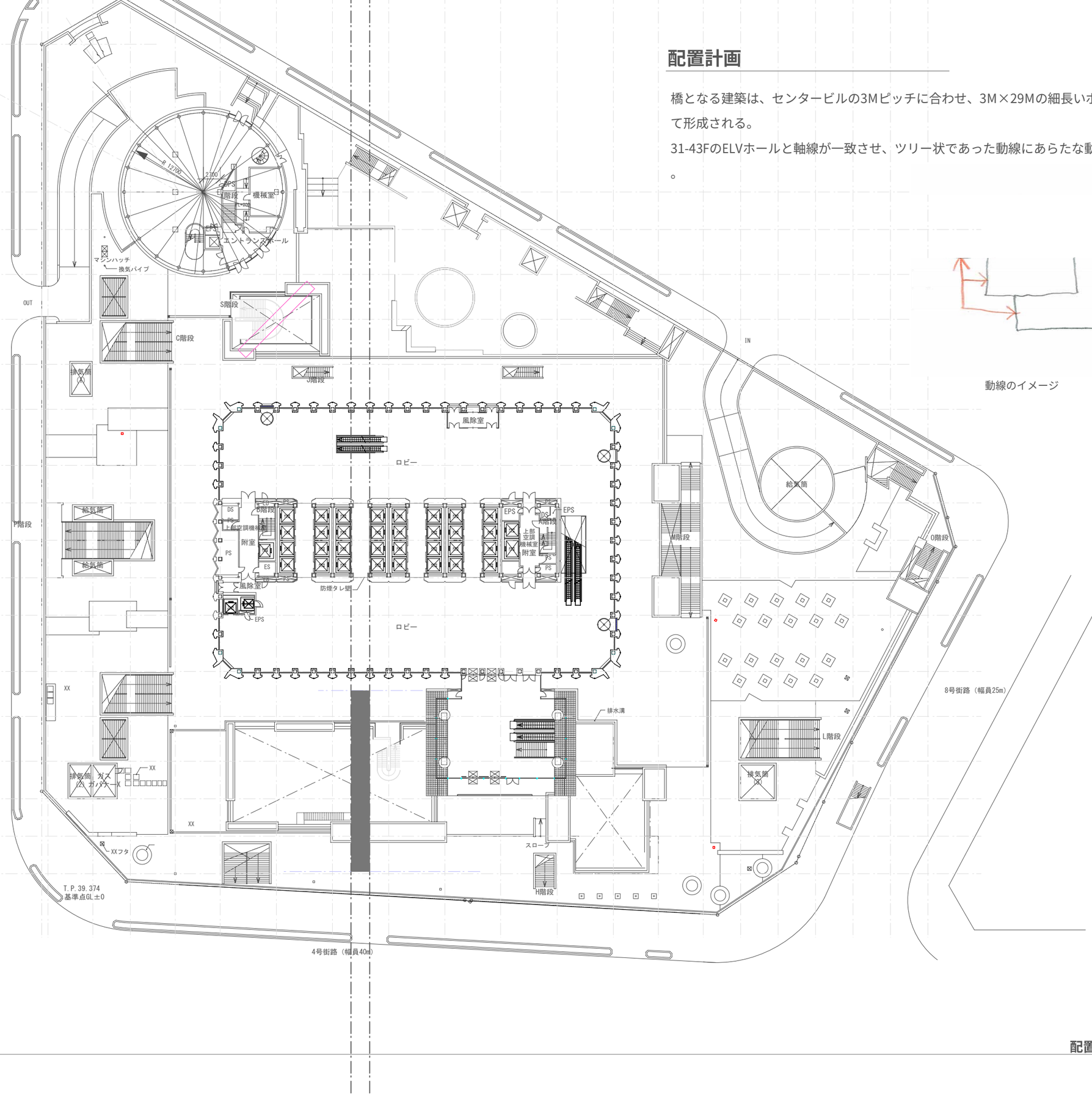
ＳＣＢにギャラリーを作るのであれば、その建築を作ることでその場所を取り巻くポテンシャルを最大限引き出すことができる建築を作るべきであると考えた。
この建築はエントランス横にある大きな吹き抜け空間（谷）の上に橋をかけるものである。

配置計画

橋となる建築は、センタービルの3Mピッチに合わせ、3M×29Mの細長いボリュームによって形成される。

31-43FのELVホールと軸線が一致させ、ツリー状であった動線にあらたな動線が追加される。

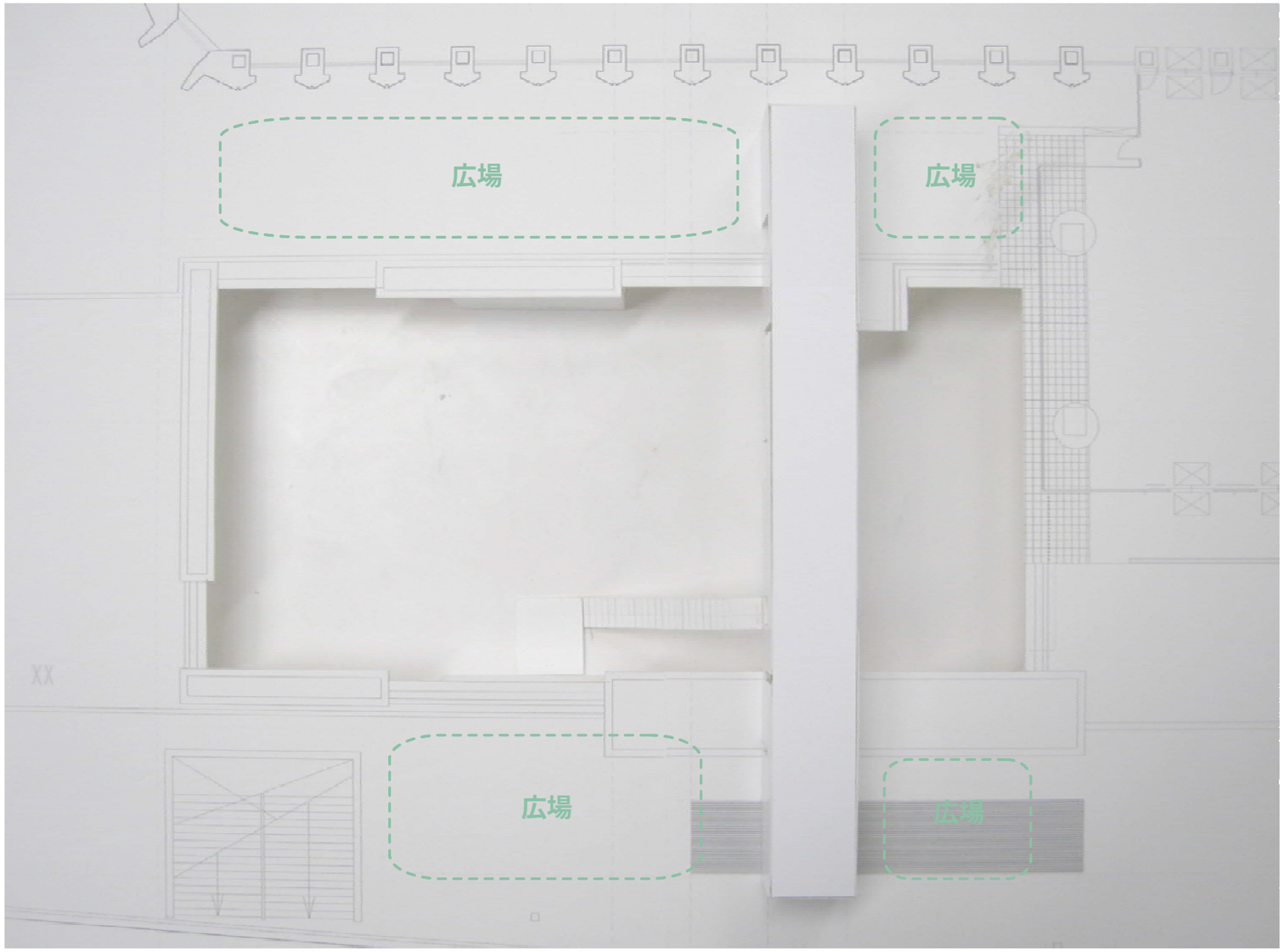
動線のイメージ



配置図　S=1/600

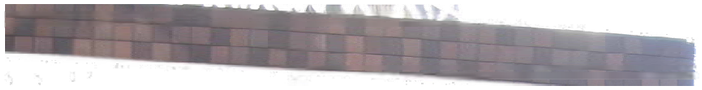
広場の分節化

他に例を見ない西新宿のスーパーブロック開発は、空間のスケールを消失化させた。センタービルも同様、広大な公開空地は殺伐とした風景だけを生み出した。線状に配置された建築は広大な広場にヒューマンスケールな空間をもたらす。



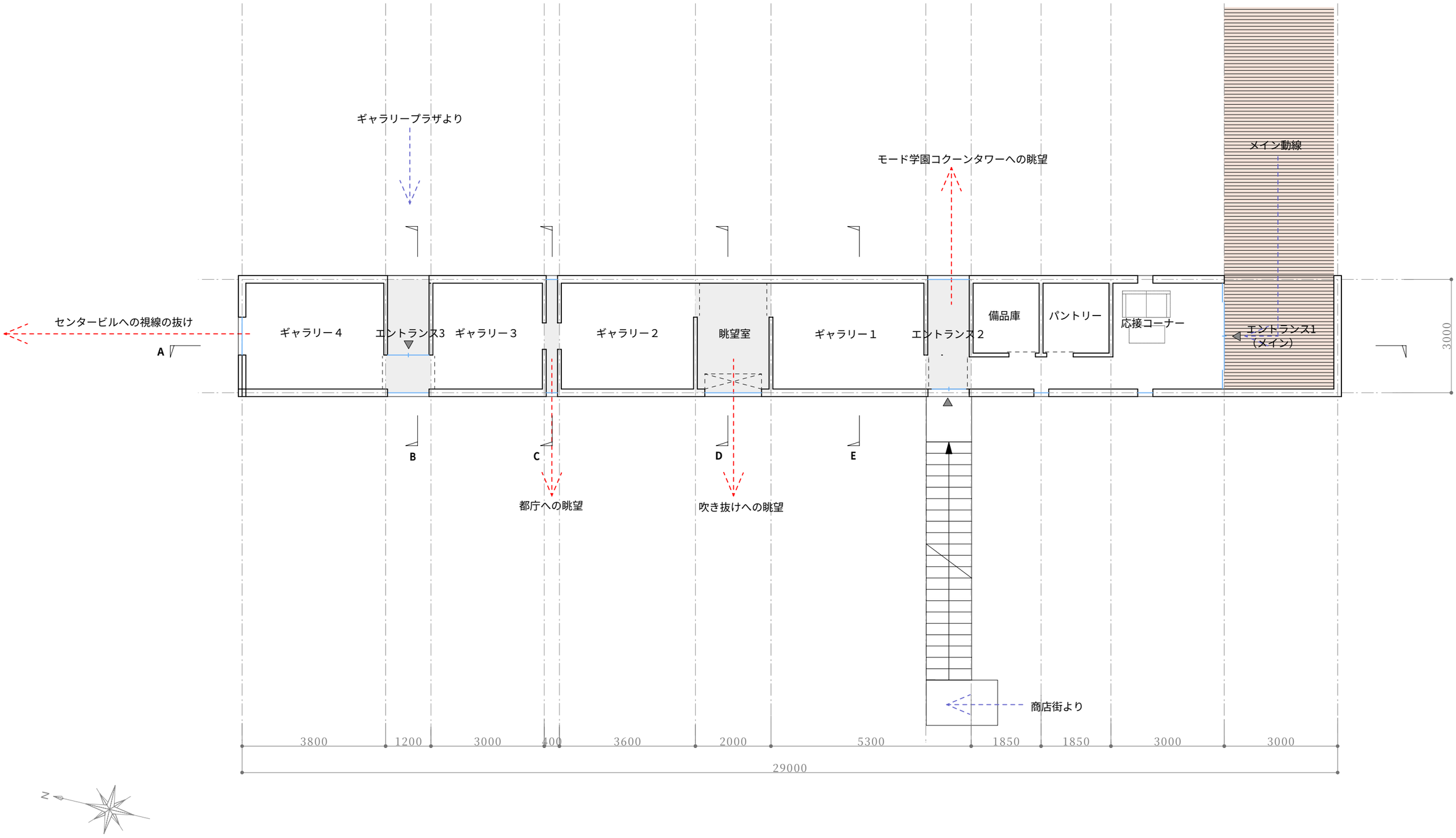
上下のつながり

地上からは感じることができない、地下に広がる商店街に広がる賑わいを引き出す。
商店街とギャラリーの視線、動線のクロス、機能の複合化が相乗効果を生み出す。



平面計画

ギャラリーを分節化し、スリットを入れることで単なるギャラリーではなく、外部の眺望や商店街の賑わいなどの風景も展示として取り込む計画とした。

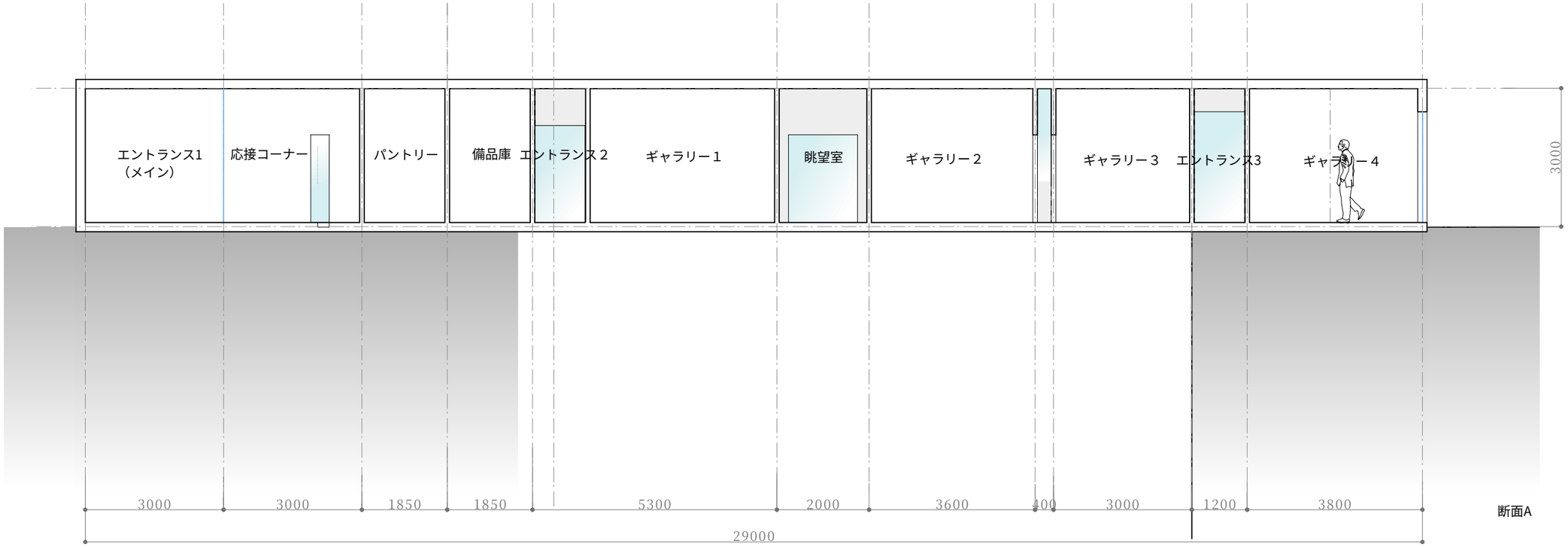


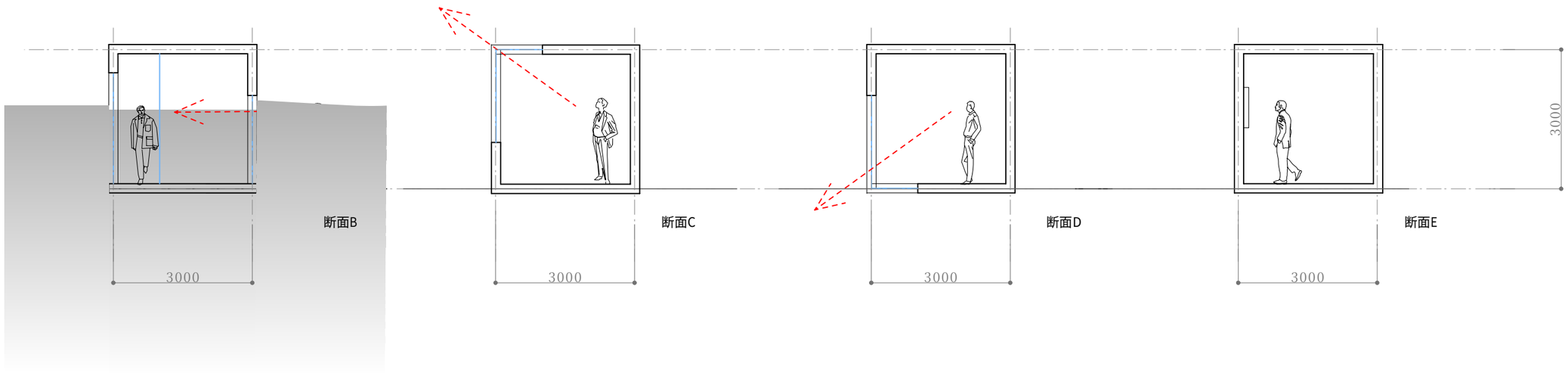
1階平面図　S=1/100

断面計画

天井や床にも開口を入れるなど、様々な開口部のパターンを持つ断面形状を計画し、風景の取り込み方にバリエーションをもたせた。
また構造は鋼板コンクリート構造を想定し、ロングスパン対応とした。

構造イメージ／MIKIMOTO GINZA

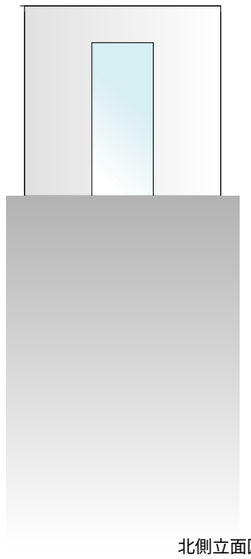




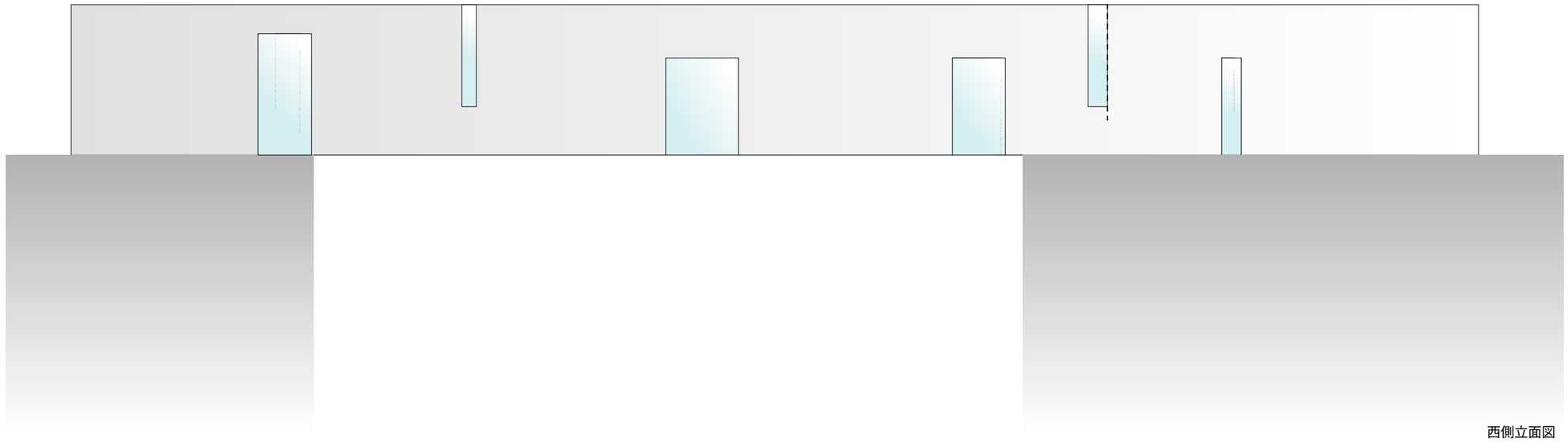
断面図　S=1/100

立面計画

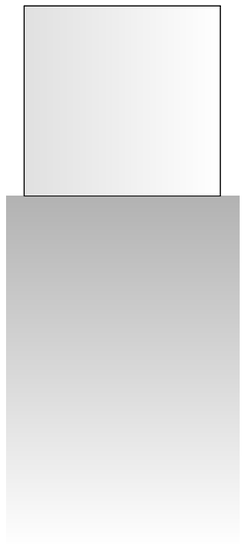
スリット開口が単純なボリュームにアクセントを加え、夜はガラス面から光が漏れることでグラフィカルなオブジェとなる。



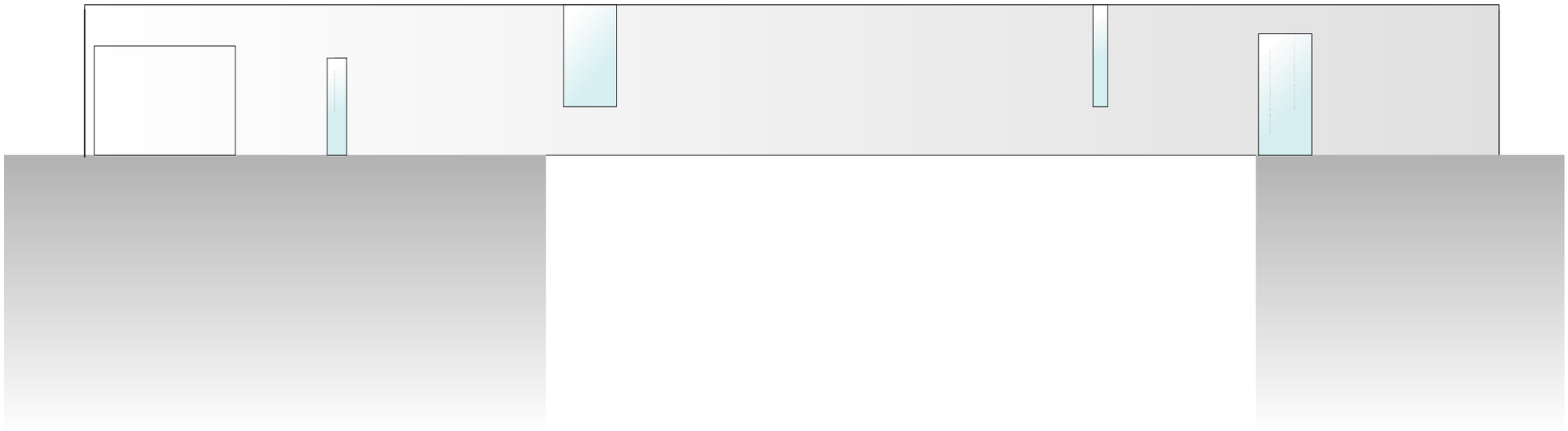
北側立面図



西側立面図



南側立面図



東側立面図